

社会活動に関する一覧表

| 活動者名(所属施設) | 会の名称および講演演題等 | 会場および新聞名等 | 活動年月日 |
|---|---|--------------------|-------------|
| 谷田諭史、溝下 勤、城 卓志 (名古屋市立大学) | 炎症性腸疾患患者さんのための医療講演会 | 愛知県・岡崎市・岡崎げんき館 | 2013年9月8日 |
| 谷田諭史、溝下 勤、塚本宏延、尾関啓司、城 卓志 (名古屋市立大学・消化器内科) | 第3回名古屋市立大学病院炎症性腸疾患患者さんのための医療講演会 | 愛知県・名古屋市・名古屋市立大学病院 | 2013年6月16日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 一般医に向けた研究成果発表 | 済生会中和病院まほろば(桜井市) | 2014年3月29日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 一般医に向けた研究成果発表 | 御所市医師会 | 2014年3月22日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 一般医に向けた研究成果発表 | 保健福祉センターカラム五條(五條市) | 2014年3月8日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 一般医に向けた研究成果発表 | 奈良市医師会館 | 2014年1月30日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | NARA FRIENDS 交流会 | まほろばキッチン(橿原市) | 2013年10月27日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 一般医に向けた研究成果発表 | 高田経済会館(大和高田市) | 2013年10月26日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 一般医に向けた研究成果発表 | 保健センターさんて郡山(大和郡山市) | 2013年9月5日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 第26回IBDクラブジュニアウエスト 講演「IBD診療から学んだこと、学ぶべきこと」 | 毎日新聞社オーバルホール(大阪市) | 2013年8月31日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 第92回奈良県病院薬剤師会学術講演会 講演「IBDの最新情報と患者指導」 | 橿原万葉ホール | 2013年8月29日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 難病医療相談会 | 奈良県難病相談支援センター | 2013年8月22日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 一般医に向けた研究成果発表 | 天理市保健センター | 2013年8月3日 |
| 藤井久男 (奈良県立医科大学附属病院中央内視鏡・超音波部) | NARA FRIENDS 総会 講演「炎症性腸疾患(IBD)の最新情報」 | 奈良県社会福祉総合センター | 2013年5月26日 |
| 二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院外科) | 第57回東北地区肛門疾患懇談会 IBDの肛門病変 | 仙台 | 2013年10月19日 |
| 二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院外科) | 七隈消化管カンファランス 特別講演会 外科医からみたcolitic cancerの問題点 | 福岡 | 2013年8月2日 |
| 二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院外科) | 第2回福岡大学筑紫病院IBDセンター市民公開講座 炎症性腸疾患の治療と生活の質ーあなたと考える治療ー | 福岡 JRホール | 2013年6月2日 |
| 二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院外科) | 日本大腸肛門病学会第22回教育セミナー クローン病の外科治療 | 横浜 パシフィコ横浜 | 2013年5月26日 |
| 余田 篤 (大阪医科大学小児科) | 小児炎症性腸疾患市民公開講座 | 大阪 阪急ランドビル | 2013年11月23日 |
| 余田 篤 (大阪医科大学小児科) | 第26回北河内炎症性腸疾患カンファランス 小児IBDの診療アプローチ | ホテルアゴラ大阪守口 | 2013年6月15日 |
| 渡辺憲治 (大阪市立大学) | 炎症性腸疾患 | 読売新聞大阪版 | 2013年10月6日 |
| 渡辺憲治 (大阪市立大学) | 日本内科学会東海支部主催 第56回生涯教育講演会、 炎症性腸疾患診療の飛躍増加し続ける患者さんの予後向上のために | 名古屋国際会議場 | 2013年6月9日 |
| 山上博一、十河光栄 | 大阪市難病療養相談会 | 中央区民センター | 2013年12月7日 |
| 渡辺憲治、鎌田紀子 (大阪市立大学) | 大阪市難病療養相談会 | あべのメディックス | 2013年8月23日 |
| 渡辺憲治 (大阪市立大学) | 堺市「特定疾患患者・家族の方を対象に開催する学習会・交流会・医療相談会」進歩するクローン病診療：より良き将来のために | 堺市総合福祉会館 | 2013年8月3日 |

VI. 研究事業報告

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」
平成 25 年度第 1 回総会プログラム

期日 平成 25 年 7 月 25 日 (木) 9:00~17:10

7 月 26 日 (金) 9:00~12:00

場所 味の素㈱本社ビル (東京都中央区京橋 1-15-1)

研究代表者 渡辺 守

(東京医科歯科大学消化器病態学)

事務局 東京医科歯科大学消化器病態学

担当 長堀 正和・中村 哲也

TEL: 03-5803-5877 FAX: 03-5803-0268

E-mail: ibd.gast@tmd.ac.jp

第1回総会について

1) 演題発表について

- (1) スライドは、Power Point で作成し、USB フラッシュメモリディスクまたはCD-ROMに保存したものをお持ち込み下さい。(Windows, Macintosh どちらも対応可能ですが、御自分のPC以外の機器でも試写してからお持ち下さい。)
- (2) 発表 30 分前までに B1 会場スライド受付までご提出下さい。その際、試写 (出力確認) も必ず行ってください。使用したメディアは、画面確認後その場でご返却いたします。
- (3) プロジェクト責任者の総括の発表は司会の中でお願い致します。臨床プロジェクト計画・研究成果の発表 (1 日目) は 5 分、討論 5 分で、基礎プロジェクト計画・研究成果の発表 (2 日目) は 4 分、討論 2 分でお願い致します。時間厳守でお願いします。
- (4) 資料を配布される場合には、200 部を 7 月 23 日 17:00 必着で IBD 班事務局までお送りいただくか当日 8 時 40 分までに B1 会場まで 200 部をお持ち下さい。

2) 発表データについて

厚生労働省への報告の必要上、発表スライドファイルを当日複製させていただきますことをご了承下さい。不都合のある先生におかれましては、事前に事務局まで御連絡をお願いします。

3) 会場セキュリティについて

- (1) 一階玄関ホール総会受付にて芳名録へご署名後、セキュリティカードをお受け取りいただき、改札を通して地下一階会場へお進みください。
- (2) 館内はセキュリティ制ですのでセキュリティカードを必ず常時携帯してください。退出される際にはカードをご返却ください。カードの紛失があると全館内のセキュリティに支障を来しますので、くれぐれも紛失ならびにお持ち帰りにならないようご注意ください。

4) 駐車場について

駐車スペースはご用意しておりませんので、公共の交通機関をご利用ください。

5) 会場案内図 味の素(株)本社ビル 東京都中央区京橋 1-15-1 / Tel. 03-5250-8111



- ① JR「東京駅」八重洲中央口 (徒歩 10 分)
- ② 東京メトロ銀座線「京橋駅」6 番出口 (徒歩 5 分)
- ③ 都営浅草線「宝町駅」A-2 出口 (徒歩 3 分)
- ④ 東京メトロ日比谷線「八丁堀駅」北口 (徒歩 10 分)

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班
平成25年度第1回総会プログラム

(敬称略)

平成25年7月25日(木)

開会(9:00)

I. 厚生労働省健康局疾病対策課挨拶

厚生労働省健康局疾病対策課 課長補佐 金光一瑛先生

II. 研究代表者挨拶・研究の進め方 研究代表者: 渡辺 守

III. 研究報告

p-A) 疫学・研究成果公表プロジェクト

A-(1) 総括的疫学解析プロジェクト (9:20~9:50)

総括 廣田 良夫 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学

炎症性腸疾患の記述疫学 - 臨床調査個人票データより -

○桑原絵里加¹、中村孝裕¹、西脇祐司¹、長堀正和²、松井敏幸³、井上 詠⁴、渡辺 守²

(東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野¹、東京医科歯科大学消化器病態学²、福岡大学筑紫病院消化器内科³、慶應義塾大学病院予防医療センター⁴)

潰瘍性大腸炎発生に対するリスク因子(多施設共同・症例対照研究)

○大藤さとこ¹、福島若葉¹、廣田良夫¹、山上博一²、渡辺憲治²、長堀正和³、渡辺 守³ (大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学¹、大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科²、東京医科歯科大学消化器病態学³、For the Japanese Case-Control Study Group for Ulcerative Colitis.)

クローン病のリスク因子に関する多施設共同・症例対照研究(進捗報告)

○福島若葉¹、大藤さとこ¹、廣田良夫¹、山上博一²、渡辺憲治²、長堀正和³、渡辺 守³ (大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学¹、大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科²、東京医科歯科大学消化器病態学³、For the Japanese Case-Control Study Group for Crohn's disease.)

A-(2) 患者視線に基づいた研究成果公表・広報活動プロジェクト (9:50~10:25)

総括 高後 裕 旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野

全国における国民・患者・一般臨床医に対する啓発・広報活動 - 一般向けおよび一般臨床医向け成果報告会の実施結果解析

渡辺 守¹、長堀正和¹、○高後 裕²、蘆田知史²、藤谷幹浩²、中村志郎³、佐々木巖⁴、福島浩平⁵、松井敏幸⁶、岩男 泰⁷ (東京医科歯科大学消化器病態学¹、旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野²、兵庫医科大学内科学下部消化管科³、みやぎ健診プラザ⁴、東北大学大学院消化管再建医工学分野・分子病態外科学分野⁵、福岡大学筑紫病院消化器内科⁶、慶應義塾大学包括先進医療センター⁷)

IBDを専門とする消化器医に求められる育成プログラムの開発-IBD病診連携ネットワークによるコホート研究からみた育成プログラムの要件

渡辺 守¹、長堀正和¹、○高後 裕²、蘆田知史²、藤谷幹浩²、稲場勇平²、中村志郎³、福永 健³、佐々木巖⁴、松井敏幸⁵、岩男 泰⁶、藤山佳秀⁷、辻川知之⁷(東京医科歯科大学消化器病態学¹、旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野²、兵庫医科大学内科学下部消化管科³、みやぎ健診プラザ⁴、福岡大学筑紫病院消化器内科⁵、慶應義塾大学包括先進医療センター⁶、滋賀医科大学消化器内科⁷)

炎症性腸疾患における生物学的製剤治療の医療経済学的効果に関する多施設共同研究

○藤谷幹浩¹、堂腰達矢¹、伊藤貴博¹、稲場勇平¹、上野伸展¹、盛一健太郎¹、田邊裕貴¹、前本篤男^{2,3}、蘆田知史^{2,3}、田倉智之⁴、高後 裕¹(旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野¹、旭川医科大学消化管再生修復医学講座²、札幌東徳州会病院 IBD センター³、大阪大学大学院医学系研究科医療経済産業政策学⁴)

B)臨床プロジェクト

B-(1) 診療標準化コアプロジェクト

B-(1)-1 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断基準および重症度基準の改変 (10:25~10:50)

総括 松井敏幸 福岡大学筑紫病院消化器内科

軽症例の重症度推移—臨床調査個人票電子化データ解析より

○桑原絵里加¹、西脇祐司¹、井上 詠²、長堀正和³、渡辺 守⁴、松井敏幸⁴(東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野¹、慶應義塾大学病院予防医療センター²、東京医科歯科大学消化器病態学³、福岡大学筑紫病院消化器内科⁴)

重症度別にみた潰瘍性大腸炎の長期経過、軽症例を中心にしたアンケート調査

○平井郁仁、松井敏幸(福岡大学筑紫病院消化器内科)

B-(1)-2 診療ガイドライン作成・改訂 (10:50~11:00)

総括 上野文昭 大船中央病院消化器肝臓病センター

炎症性腸疾患診療ガイドライン改訂計画の進捗状況

○上野文昭¹、渡邊聡明²、松井敏幸³、渡辺 守⁴(大船中央病院消化器肝臓病センター¹、東京大学腫瘍外科²、福岡大学筑紫病院消化器内科³、東京医科歯科大学消化器病態学⁴)

B-(1)-3 標準化を目指した治療指針の改訂 (11:00~11:30)

総括 中村志郎 兵庫医科大学内科学下部消化管科

治療の標準化を目指した潰瘍性大腸炎治療指針の改訂

○中村志郎¹、杉田 昭²、余田 篤³、蘆田知史⁴、安藤 朗⁵、伊藤裕章⁶、押谷伸英⁷、金井隆典⁸、鈴木康夫⁹、長堀正和¹⁰、松井敏幸¹¹、佐々木巖¹²、友政 剛¹³、田尻 仁¹⁴、福永 健¹、樋田信幸¹(兵庫医科大学内科学下部消化管科¹、横浜市民病院外科²、大阪医科大学小児科³、札幌東徳州会病院 IBD センター⁴、滋賀医科大学消化器内科⁵、錦秀会インフュージョンクリニック⁶、泉大津市立病院消化器内科⁷、慶應義塾大学消化器内科⁸、東邦大学佐倉病院消化器病センター⁹、東京医科歯科大学消化器内科¹⁰、福岡大学筑紫病院消化器内科¹¹、みやぎ健診プラザ¹²、パルこどもクリニック¹³、大阪府立急性期・総合医療センター小児科¹⁴)

治療の標準化を目指したクローン病治療指針の改訂

○中村志郎¹、杉田 昭²、余田 篤³、蘆田知史⁴、安藤 朗⁵、伊藤裕章⁶、押谷伸英⁷、金井隆典⁸、鈴木康夫⁹、長堀正和¹⁰、松井敏幸¹¹、佐々木巖¹²、友政 剛¹³、田尻 仁¹⁴、福永 健¹、樋田信幸¹(兵庫医科大学内科学下部消化管科¹、横浜市民病院外科²、大阪医科大学小児科³、札幌東徳州会病院 IBD センター⁴、滋賀医科大学消化器内科⁵、錦秀会インフュージョンクリニック⁶、泉大津市立病院消化器内科⁷、慶應義塾大学消化器内科⁸、東邦大学佐倉病院消化器病センター⁹、東京医科歯科大学消化器内科¹⁰、福岡大学筑紫病院消化器内科¹¹、東北大学生態調節外科¹²、パルこどもクリニック¹³、大阪府立急性期・総合医療センター小児科¹⁴)

潰瘍性大腸炎、クローン病外科治療指針の改訂

○杉田 昭¹、亀岡信悟²、二見喜太郎³、根津理一郎⁴、藤井久男⁵、楠正人⁶、舟山裕士⁷、渡邊聡明⁸、福島浩平⁹、板橋道朗¹⁰、池内浩基¹¹、飯合恒夫¹²、佐々木巖¹³、中村志郎¹⁴ (横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター¹、東京女子医大第2外科²、福岡大学筑紫病院外科³、西宮市立中央病院外科⁴、奈良県立医科大学中央内視鏡超音波部⁵、三重大学消化管、小児外科学⁶、東北労災病院大腸肛門外科⁷、東京大学大腸肛門外科⁸、東北大学分子病態外科⁹、東京女子医大第2外科¹⁰、兵庫医科大学下部消化管外科¹¹、白根健生病院外科¹²、みやぎ健診プラザ¹³、兵庫医科大学内科学下部消化管科¹⁴)

B-(4) 診療に伴う合併症/副作用および特殊型への対策プロジェクト

B-(4)-2 炎症性腸疾患にともなう感染症の現状とその対策 (11:30~11:40)

総括 岡崎和一 関西医科大学 消化器・肝臓内科

我が国における炎症性腸疾患の急性増悪・再燃因子の前向き実態調査 (特に感染症との関連性)

岡崎和一¹、○大宮美香¹、深田憲将¹、佐々木誠人²、渡辺憲治³、大川清孝⁴、加賀谷尚史⁵、高添正和⁶、酒匂美奈子⁶、渡辺守⁷、長堀正和⁷、飯塚文瑛⁸、後藤秀実⁹、谷田諭史⁹、花井洋行¹⁰、飯田貴之¹⁰、平田一郎¹¹、藤田浩史¹¹、加藤 順¹² (関西医科大学内科学第三講座¹、愛知医科大学消化器内科²、大阪市立大学消化器内科³、大阪市立十三市民病院⁴、金沢大学消化器内科⁵、社旗保険中央総合病院 IBDセンター⁶、東京医科歯科大学消化器病態学⁷、東京女子医科大学 IBDセンター⁸、名古屋市立大学消化器・代謝内科⁹、浜松南病院 IBDセンター¹⁰、藤田保健衛生大学消化器内科¹¹、和歌山県立医科大学第二内科¹²)

B-(4)-3 炎症性腸疾患と他臓器相関に関する臨床研究 (11:40~12:10)

総括 岡崎和一 関西医科大学 消化器・肝臓内科

多施設共同観察研究 炎症性腸疾患に合併する自己免疫性膵炎の実態調査 (第2報)

—難治性膵疾患に関する調査研究班との共同研究—

○岡崎和一¹、渡辺 守²、川 茂幸³、下瀬川 徹⁴ (関西医科大学内科学第三講座¹、東京医科歯科大学消化器病態学²、信州大学医学部内科学第二講座³、東北大学消化器内科⁴)

炎症性腸疾患における免疫抑制療法中のB型肝炎再活性化に関する調査研究

坪内博仁¹、○井戸章雄²、沼田政嗣²、森内昭博²、上村修司²、玉井 努²、船川慶太²、藤田 浩²、宇都浩文²、桶谷 眞² (鹿児島大学大学院 HGF 組織修復・再生医療学¹、鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学²)

免疫修飾的治療下の炎症性腸疾患患者に対するインフルエンザワクチン接種の有効性の検討～

「予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究：廣田班」との共同研究～

○渡辺憲治¹、松本紘子¹、大藤さとこ²、萩原良恵¹、山上博一¹、荒川哲男¹、廣田良夫² (大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科学¹、公衆衛生学²)

<昼食・幹事会> (12:10~13:00)

B-(2) 画期的な診断・治療の開発プロジェクト —診断面から—

B-(2)-1 新たなデバイスを用いたクローン病小腸病変の診断と治療 (13:00~13:35)

総括 松本主之 九州大学大学院病態機能内科学

クローン病の小腸狭窄に対する内視鏡的拡張療法 —多施設共同前向き試験の登録状況と中間解析—

○平井郁仁¹、松本主之²、松井敏幸¹ (福岡大学筑紫病院消化器内科¹、九州大学病態機能内科学²)

クローン病小腸病変に対するバルーン小腸内視鏡とMREの比較試験：国内多施設共同試験

○渡辺憲治¹、十河光栄¹、山上博一¹、竹内 健²、鈴木康夫²、矢野智則³、歌野健一⁴、山本博徳³、平井郁仁⁵、松井敏幸⁵、長沼 誠⁶、日比紀文⁷、大塚和朗⁸、渡辺 守⁸ (大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科学¹、東邦大学医療センター佐倉病院内科²、自治医科大学消化器内科³、福島県立医科大学会津医療センター小腸大腸肛門科⁴、福岡大学筑紫病院消化器内科⁵、慶應義塾大学医学部消化器内科⁶、北里大学北里研究所病院炎症性

腸疾患先進治療センター⁷、東京医科歯科大学消化器病態学⁹)
本邦クローン病におけるカプセル内視鏡所見の検討—多施設共同研究の進捗状況—
○松本主之、江崎幹宏 (九州大学大学院病態機能内科学)

B-(2)-2 癌サーベイランス法の確立 (13:35~14:00)

総括 渡邊聡明 東京大学臓器病態外科学講座腫瘍外科学

潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立

○渡邊聡明¹、味岡洋一²、武林 亨³、井上永介⁴、飯塚文瑛⁵、五十嵐正広⁶、岩男 泰⁷、大塚和朗¹⁷、工藤進英⁸、小林清典⁹、佐田美和⁹、田中信治¹⁰、友次直輝¹¹、樋田信幸¹²、平田一郎¹³、松本主之¹⁴、渡辺憲治¹⁵、上野文昭¹⁶、渡辺 守¹⁷、日比紀文⁸ (東京大学大学院医学系研究科・医学部臓器病態外科学講座腫瘍外科学¹、新潟大学大学院医歯学総合研究科分子・診断病理学分野²、慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学³、北里大学薬学部臨床統計⁴、東京女子医科大学消化器病センター⁵、癌研有明病院内科⁶、慶応義塾大学内科⁷、昭和大学横浜市北部病院消化器センター⁸、北里大学東病院内科⁹、広島大学病院内視鏡診療科¹⁰、慶応義塾大学クリニカルリサーチセンター¹¹、兵庫医科大学下部消化管科¹²、藤田保健衛生大学消化管内科¹³、九州大学大学院病態機能内科学¹⁴、大阪市立大学医学部消化器内科¹⁵、大船中央病院・消化器肝臓病センター¹⁶、東京医科歯科大学消化器病態学¹⁷、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター¹⁸)

クローン病に合併した大腸癌のsurveillance program 確立の検討 (痔瘻癌を含む)

—多施設共同研究によるpilot studyの中間報告 (第3報) —

○杉田 昭¹、小金井一隆¹、二見喜太郎²、舟山裕士³、池内浩基⁴、根津理一郎⁵、板橋道朗⁶、飯合恒夫⁷、水島恒和⁸、荒木俊光⁹、渡邊聡明¹⁰、福島浩平¹¹、佐々木巖¹² (横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター¹、福岡大学筑紫病院外科²、東北労災病院大腸肛門外科³、兵庫医科大学下部消化管外科⁴、西宮市立中央病院外科⁵、東京女子医大第2外科⁶、白根健生病院外科⁷、大阪大学消化器外科⁸、三重大学消化管小児外科学⁹、東京大学大腸肛門外科¹⁰、東北大学分子病態外科¹¹、みやぎ健診プラザ¹²)

B-(3) 画期的な診断・治療の開発プロジェクト —治療面から—

B-(3)-1 難治性炎症性腸疾患に対する新規治療の位置づけ (14:00~14:20)

総括 日比紀文 北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター

多施設共同医師主導型臨床試験「難治性潰瘍性大腸炎に対する tacrolimus と infliximab の治療効果比較試験」

○松岡克善¹、長沼 誠¹、金井隆典¹、日比紀文²、渡辺 守³、樋田信幸⁴、松浦 稔⁵、猿田雅之⁶、朝倉敬子⁷ (慶応義塾大学消化器内科¹、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター²、東京医科歯科大学消化器病態学³、兵庫医科大学内科下部消化管科⁴、京都大学医学部消化器内科⁵、東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科⁶、慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学⁷)

多施設共同医師主導型臨床研究の提案「インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究-HAYABUSA-」

○久松理一¹、仲瀬裕志²、平井郁仁³、松本主之⁴、本谷 聡⁵、渡辺憲治⁶、日比紀文⁷ (慶応義塾大学医学部消化器内科¹、京都大学消化器内科²、福岡大学筑紫病院消化器内科³、九州大学大学院病態機能内科学⁴、JA北海道厚生連札幌厚生病院 IBDセンター⁵、大阪市立大学消化器内科⁶、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター⁷)

B-(3)-2 クローン病に対する適切な免疫調節剤投与法、インフリキシマブ二次無効例に対する対処 (14:20~15:05)

総括 鈴木康夫 東邦大学医療センター佐倉病院内科

クローン病に対するアダリムマブと免疫調節剤併用療法の検討：進捗状況

○松本主之¹、仲瀬裕志²、渡辺憲治³、久松理一⁴、本谷 聡⁵、蘆田知史⁶、伊藤裕章⁷、鈴木康夫⁸、松井敏幸⁹、

日比紀文¹⁰、渡辺 守¹¹ (九州大学病態機能内科学¹、京都大学消化器内科²、大阪市立大学消化器内科³、慶應義塾大学消化器内科⁴、札幌厚生病院 IBDセンター⁵、札幌東徳洲会病院 IBDセンター⁶、錦秀会インフージョンクリニック⁷、東邦大学医療センター佐倉病院消化器内科⁸、福岡大学筑紫病院消化器内科⁹、北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター¹⁰、東京医科歯科大学消化器病態学¹¹)

インフリキシマブによる寛解維持治療における効果不十分なクローン病患者を対象とした栄養療法併用効果確認試験 (CERISIER Trial) (多施設共同研究)

○久松理一¹、中村志郎²、長堀正和³、横山薫⁴、国崎玲子⁵、辻川知之⁶、仲瀬裕志⁷、渡辺憲治⁸、本谷 聡⁹、蘆田知史¹⁰、山本博徳¹¹、平石秀行¹²、屋嘉比康治¹³、勝野達郎¹⁴、鈴木康夫¹⁵、大草敏史¹⁶、飯塚文瑛¹⁷、中井勝彦¹⁸、横山 正¹⁹、平田一郎²⁰、山本隆行²¹、飯島英樹²²、樋口和秀²³、小坂正²⁴、春間 賢²⁵、平岡佐規子²⁶、田中信治²⁷、河内修治²⁸、安藤 朗⁶、渡辺 守³、日比紀文²⁹ (慶應義塾大学消化器内科¹、兵庫医科大学消化器内科²、東京医科歯科大学消化器病態学³、北里大学東病院消化器内科⁴、横浜市立大学炎症性腸疾患 (IBD) センター⁵、滋賀医科大学消化器内科⁶、京都大学内科系 消化器内科学講座⁷、大阪市立大学消化器内科⁸、札幌厚生病院 IBDセンター⁹、札幌東徳洲会病院 IBDセンター¹⁰、自治医科大学消化器内科¹¹、獨協医科大学消化器内科¹²、埼玉医科大学医療センター消化器・肝臓内科¹³、千葉大学消化器内科¹⁴、東邦大学佐倉病院消化器内科¹⁵、東京慈恵会医科大学柏病院消化器・肝臓内科¹⁶、東京女子医科大学消化器内科¹⁷、松田病院胃腸・肛門外科¹⁸、横山胃腸科病院¹⁹、藤田保健衛生大学消化器内科²⁰、四日市社会保険病院 IBDセンター²¹、大阪大学消化器内科²²、大阪医科大学消化器内科²³、大和病院²⁴、川崎医科大学食道・胃腸内科²⁵、岡山大学消化器・肝臓内科²⁶、広島大学内視鏡診療科²⁷、松山赤十字病院消化器内科²⁸、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター²⁹)

多施設共同医師主導型臨床研究「アダリムマブと免疫調節剤併用中の寛解クローン病患者における免疫調節剤休薬の検討-Diamond2」

○久松理一¹、松本主之²、仲瀬裕志³、渡辺憲治⁴、渡辺 守⁵、日比紀文⁶ (慶應義塾大学医学部消化器内科¹、九州大学大学院病態機能内科学²、京都大学消化器内科³、大阪市立大学消化器内科⁴、東京医科歯科大学消化器病態学⁵、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター⁶)

特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験 (Castle Study) の提案

○渡辺憲治¹、松本主之²、仲瀬裕志³、久松理一⁴、平井郁仁⁵、小林清典⁶、日比紀文⁷、渡辺 守⁸ (大阪市立大大学院医学研究科消化器内科学¹、九州大学大学院病態機能内科学²、京都大学消化器内科・内視鏡部³、慶應義塾大学医学部消化器内科⁴、福岡大学筑紫病院消化器内科⁵、北里大学東病院消化器内科⁶、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター⁷、東京医科歯科大学消化器病態学⁸)

B-(3)-3 外科治療の現状と工夫 (15:05~16:10)

総括 杉田 昭 横浜市立市民病院外科

外科治療の現状、工夫、予後-プロジェクト研究の現状と方針-

○杉田 昭¹、亀岡信悟²、二見喜太郎³、根津理一郎⁴、藤井久男⁵、楠 正人⁶、舟山裕士⁷、渡邊聡明⁸、福島浩平⁹、板橋道朗²、池内浩基¹¹、飯合恒夫¹²、佐々木巖¹³ (横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター¹、東京女子医大第2外科²、福岡大学筑紫病院外科³、西宮市立中央病院外科⁴、奈良県立医科大学中央内視鏡超音波部⁵、三重大学消化管・小児外科学⁶、東北労災病院大腸肛門外科⁷、東京大学大腸肛門外科⁸、東北大学分子病態外科⁹、兵庫医科大学下部消化管外科¹⁰、白根健生病院外科¹¹、みやぎ健診プラザ¹³)

クローン病術後療法に関する調査研究—インフリキシマブ併用療法・術後管理

○福島浩平¹、羽根田祥²、渡辺和宏²、長尾宗徳²、神山篤史²、鈴木秀幸²、舟山裕士³、杉田 昭⁴、二見喜太郎⁵、畠山勝義⁶、藤井久男⁷、吉岡和彦⁹、亀岡信悟¹⁰、渡邊聡明¹¹、楠 正人¹²、池内浩基¹³、中村志郎¹⁴、鈴木康夫¹⁵、木内喜孝¹⁶、渡辺 守¹⁷、佐々木巖¹⁸ (東北大学大学院消化管再建医工学・分子病態外科学分野¹、東北大学大学院生体調節外科学分野²、東北労災病院大腸肛門外科³、横浜市民病院外科⁴、福岡大学筑紫病院外科⁵、新潟大学消化器・一般外科⁶、奈良県立医科大学中央内視鏡・超音波部⁷、兵庫医科大学外科⁸、関西医科大学付属香里病院外科⁹、東京女子医科大学第二外科¹⁰、東京大学腫瘍外科¹¹、三重大学消化管・小児外科学¹²、兵庫医科大学

IBDセンター外科¹³、兵庫医科大学IBDセンター内科¹⁴、東邦大学医療センター佐倉病院内科¹⁵、東北大学保健管理センター¹⁶、東京医科歯科大学消化器病態学¹⁷、みやぎ健診プラザ¹⁸)

UC 周術期血栓塞栓症のスクリーニングの前向き研究

亀岡信悟¹、○板橋道朗¹、小川真平¹、杉田 昭²、福島浩平³、渡邊聡明⁴、飯合恒夫⁵、池内浩基⁶、楠 正人⁷、藤井久男⁸、二見喜太郎⁹、舟山裕士¹⁰、根津理一郎¹¹ (女子医大 IBDセンター・外科¹、横浜市民病院 IBDセンター²、東北大学外科³、東京大学外科⁴、新潟大学外科⁵、兵庫医大 IBDセンター⁶、三重大学外科⁷、奈良医大外科⁸、福岡大学筑紫病院外科⁹、東北労災病院大腸肛門外科¹⁰、西宮市立中央病院外科¹¹)

回腸囊炎に関する調査研究—「寛解」の定義および「抗菌剤長期服用」について

○福島浩平¹、羽根田祥²、渡辺和宏²、鈴木秀幸²、長尾宗徳²、神山篤史²、舟山裕士³、杉田 昭⁴、二見喜太郎⁵、畠山勝義⁶、藤井久男⁷、池内浩基⁸、小金井一隆⁴、飯合恒夫⁶、東大二郎⁵、吉岡和彦⁹、亀岡信悟¹⁰、渡邊聡明¹¹、楠 正人¹²、佐々木巖¹³ (東北大学大学院消化管再建医工学・分子病態外科学分野¹、東北大学大学院生体調節外科学分野²、東北労災病院大腸肛門外科³、横浜市民病院外科⁴、福岡大学筑紫病院外科⁵、新潟大学消化器・一般外科⁶、奈良県立医科大学中央内視鏡・超音波部⁷、兵庫医科大学 IBDセンター外科⁸、関西医科大学付属香里病院外科⁹、東京女子医科大学第二外科¹⁰、東京大学腫瘍外科¹¹、三重大学消化管・小児外科学¹²、みやぎ健診プラザ¹³)

高齢者潰瘍性大腸炎に対する手術の検討 - 手術適応、手術時期、手術術式、予後のアンケート調査について -

○杉田昭¹、亀岡信悟²、二見喜太郎³、根津理一郎⁴、藤井久男⁵、楠正人⁶、舟山裕士⁷、渡邊聡明⁸、福島浩平⁹、板橋道朗¹⁰、池内浩基¹¹、飯合恒夫¹²、佐々木巖¹³ (横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター¹、東京女子医大第2外科²、福岡大学筑紫病院外科³、西宮市立中央病院外科⁴、奈良県立医科大学中央内視鏡超音波部⁵、三重大学消化管・小児外科学⁶、東北労災病院大腸肛門外科⁷、東京大学大腸肛門外科⁸、東北大学分子病態外科⁹、東京女子医大第2外科¹⁰、兵庫医科大学下部消化管外科¹¹、白根健生病院外科¹²、みやぎ健診プラザ¹³)

潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対する外科治療—外科治療指針作成に向けて

藤井久男¹、○小山文一¹、中川正²、中島祥介²、杉田昭³、飯合恒夫⁴、池内浩基⁵、亀岡信吾⁶、楠正人⁷、根津理一郎⁸、福島浩平⁹、二見喜太郎¹⁰、舟山裕士¹¹、吉岡和彦¹²、渡邊聡明¹³、渡邊昌彦¹⁴ (奈良医大中央内視鏡・超音波部¹、奈良医大消化器・総合外科²、横浜市民病院外科³、新潟大消化器・一般外科⁴、兵庫医大 IBDセンター⁵、東京女子医第2外科⁶、三重大消化管・小児外科⁷、西宮市立中央病院⁸、東北大分子病態外科⁹、福岡大筑紫病院外科¹⁰、東北労災病院外科¹¹、関西医大香里病院外科¹²、東京大腫瘍外科¹³、北里大外科¹⁴)

B-(4) 診療に伴う合併症/副作用および特殊型への対策プロジェクト

B-(4)-1 潰瘍性大腸炎合併サイトメガロウイルス腸炎および血栓症 (16:10~16:35)

総括 鈴木康夫 東邦大学医療センター佐倉病院内科

潰瘍性大腸炎に合併するサイトメガロウイルス(CMV)再活性化症例に対する前向き研究 進捗状況

鈴木康夫¹、石黒 陽²、仲瀬裕志³、大宮美香⁴、平井郁仁⁵、池田圭祐⁶、山田哲弘¹、松岡克善⁷、○長沼 誠⁷、福地 工⁸、長堀正和⁹、渡辺 守⁹ (東邦大学医療センター佐倉病院内科¹、弘前大学光学医療診療部²、京都大学消化器内科³、関西医科大学香里病院消化器内科⁴、福岡大学筑紫病院消化器科⁵、福岡大学筑紫病院病理⁶、慶應義塾大学医学部消化器内科⁷、大阪済生会中津病院消化器内科⁸、東京医科歯科大学消化器病態学⁹)

炎症性腸疾患における血栓症発症の頻度および危険因子に関する多施設共同研究

○藤谷幹浩¹、安藤勝祥¹、伊藤貴博¹、稲場勇平¹、上野伸展¹、盛一健太郎¹、前本篤男^{2,3}、蘆田知史^{2,3}、田邊裕貴¹、高後 裕¹ (旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野¹、旭川医科大学消化管再生修復医学講座²、札幌東徳州会病院 IBDセンター³、国際医療福祉大学病院消化器内科⁴)

B-(4)-4 炎症性腸疾患患者の妊娠出産における現状とその対策 (16:35~16:45)

総括 三浦総一郎 防衛医科大学校内科学講座 (穂苺量太)

妊娠出産の転帰と治療内容に関する多施設共同研究の状況

三浦総一郎¹、○穂苺量太¹、高本俊介¹、渡辺知佳子¹、長堀正和²、渡辺 守²、松岡克善³、長沼 誠³、

日比紀文⁴、本谷 聡⁵、樋田信幸⁶、国崎玲子⁷、高橋宏和⁷、吉村直樹⁸、飯塚文瑛⁹、藤盛健二¹⁰、猿田雅之¹¹、谷田諭史¹²、藤山佳秀¹³、内藤裕二¹⁴、渡辺憲治¹⁵、飯島英樹¹⁶、上野義隆¹⁷、田中信治¹⁷、石原俊治¹⁸、杉田 昭¹⁹、池上幸治²⁰、松本主²⁰、仲瀬裕志²¹、岡崎和一²²、石黒陽²³、松本吏弘²⁴、崙山敏男²⁵、小林清典²⁵、横山 薫²⁵、松井敏幸²⁷、鶴身小都絵²⁷、加賀谷尚史²⁸ (順不同) (防衛医科大学校内科¹、東京医科歯科大学消化器病態学²、慶應義塾大学医学部消化器内科³、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター⁴、札幌厚生病院 IBD センター⁵、兵庫医科大学内科学下部消化管科⁶、横浜市立大学消化器内科⁷、社会保険中央総合病院内科⁸、東京女子医科大学 IBD センター (消化器内科)⁹、埼玉医大消化器肝臓内科¹⁰、慈恵会医科大学付属病院消化器・肝臓内科¹¹、名古屋市立大学病院消化器内科¹²、滋賀医科大学消化器内科¹³、京都府立医科大学消化器内科¹⁴、大阪市立大学病院消化器内科¹⁵、大阪大学医学部付属病院消化器内科¹⁶、広島大学病院内視鏡診療科¹⁷、島根医科大学消化器内科¹⁸、横浜市民病院外科¹⁹、九州大学病院消化器内科²⁰、京都大学消化器内科²¹、関西医大消化器肝臓内科²²、弘前大学光学医療科²³、さいたま医療センター消化器科²⁴、鹿児島大学医学部付属病院消化器内科²⁵、北里大学東病院消化器内科²⁶、福岡大学筑紫病院消化器内科²⁷、金沢大学附属病院消化器内科²⁸)

B-(4)-5 高齢発症炎症性腸疾患患者の治療指針の必要性 (16:45~17:05)

総括 三浦総一郎 防衛医科大学校内科学講座 (穂刈量太)

高齢者炎症性腸疾患診療の現状把握—前向き多施設共同研究の経過報告—

三浦総一郎¹、○高本俊介¹、穂刈量太¹、渡辺知佳子¹、田中浩紀²、本谷聡²、加賀谷尚史³、松本史弘⁴、渡邊聡明⁵、吉村直樹⁶、長堀正和⁷、渡辺 守⁷、松岡克善⁸、日比紀文⁹、横山 薫¹⁰、小林清典¹⁰、谷田諭史¹¹、馬場重樹¹²、藤山佳秀¹²、内藤裕二¹³、仲瀬裕志¹⁴、山上博一¹⁵、渡辺憲治¹⁵、石黒 陽¹⁵、樋田信幸¹⁷、永井健太¹⁸、上野義隆¹⁸、田中信治¹⁸、石原俊治¹⁹、瀬戸山仁²⁰、藤田 浩²⁰、坪内博仁²⁰、高橋清彦²¹、松井敏幸²¹、二見喜太郎²²、花井洋行²²、加藤真吾²⁴、佐々木誠人²⁵ (順不同) (防衛医科大学校内科¹、札幌厚生病院 IBD センター²、金沢大学医学部消化器内科³、自治医科大学付属さいたま医療センター消化器科⁴、東京大学医学部大腸肛門外科⁵、社会保険中央総合病院内科⁶、東京医科歯科大学消化器病態学⁷、慶應義塾大学医学部消化器内科⁸、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター⁹、北里大学東病院消化器内科¹⁰、名古屋市立大学病院消化器内科¹¹、滋賀医科大学消化器内科¹²、京都府立医科大学消化器内科¹³、京都大学医学部付属病院消化器内科¹⁴、大阪市立大学病院消化器内科¹⁵、国立病院機構弘前病院消化器内科¹⁶、兵庫医科大学内科学下部消化管科¹⁷、広島大学病院内視鏡診療科¹⁸、島根大学医学部消化器内科¹⁹、鹿児島大学医学部付属病院消化器内科²⁰、福岡大学筑紫病院消化器内科²¹、福岡大学筑紫病院外科²²、浜松南病院消化器病・IBD センター²³、埼玉医科大学総合医療センター消化器内科²⁴、愛知医科大学消化器内科²⁵)

小児期発症炎症性腸疾患の治療に関する全国調査

○清水俊明¹、友政 剛²、田尻 仁³、国崎玲子⁴、石毛 崇⁵、山田寛之⁶、新井勝大⁷、大塚直一¹、余田 篤⁸、牛島高介⁹、青松友規⁸、永田智¹⁰、内田恵一¹¹、竹内一夫¹²、穂刈量太¹³、三浦総一郎¹³、渡辺守¹⁴ (順天堂大学医学部小児科¹、パルこどもクリニック²、大阪府立急性期・総合医療センター小児医療センター³、横浜市立大学附属市民総合医療センター⁴、群馬大学大学院医学系研究科小児科学⁵、大阪府立母子センター消化器内分泌科⁶、国立成育医療研究センター消化器科⁷、大阪医科大学泌尿生殖発達医学講座小児科⁸、久留米大学医療センター小児科⁹、東京女子医科大学小児科¹⁰、三重大学医学部小児外科¹¹、埼玉大学教育学部学校保健学講座¹²、防衛医科大学内科¹³、東京医科歯科大学消化器病態学¹⁴)

事務局連絡

(17:10 終了予定)

平成25年7月26日(金)

I. 国立保健医療科学院挨拶

国立保健医療科学院健康危機管理研究部 首席主任研究官 武村 真治 先生

II. 研究報告(続)

p-C) 基礎プロジェクト

C-(1) 診療に有用なバイオマーカー開発

C-(1)-1 免疫関連バイオマーカーの開発 (9:10~9:58)

総括 竹田 潔 大阪大学大学院医学系研究科、千葉 勉 京都大学大学院医学研究科消化器内科学

虫垂リンパ組織の腸管炎症制御における役割

正島和典、○竹田 潔 (大阪大学大学院医学系研究科免疫制御学)

ヒト腸管粘膜固有層に存在する Th17 誘導性ミエロイド細胞の同定

○荻野崇之¹、西村潤一¹、香山尚子²、Soumik Barmar²、植村 守¹、畑 泰司¹、竹政伊知朗¹、水島恒和¹、山本浩文¹、土岐祐一郎¹、森 正樹¹、竹田 潔² (大阪大学大学院医学系研究科消化器外科¹、大阪大学大学院医学系研究科免疫制御学²)

クローン病における IL-34 の役割について

○吉野琢哉、仲瀬裕志、松浦 稔、千葉 勉 (京都大学医学部附属病院消化器内科)

サイクロスポリンの作用機序における IL-22/STAT-3 の役割

櫻庭 裕丈、○石黒 陽²、平賀 寛人¹、蓮井桂介¹、福田 眞作

(弘前大学消化器血液内科、国立病院機構弘前病院 消化器血液内科・臨床研究部)

炎症性腸疾患患者腸内で低下する *Fusicatenibacter saccharivorans* による IL-10 産生誘導能についての検討

○竹下 梢¹、金井隆典¹、筋野智久²、三上洋平¹、水野慎大¹、三枝慶一郎¹、松岡克善¹、佐藤俊朗¹、久松理一¹、日比紀文² (慶應義塾大学消化器内科¹、北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター²)

Schizophyllan を利用した新規 Drug delivery system による炎症性腸疾患の治療法の検討

○竹田津英穂¹、光山慶一^{1,2}、山崎博¹、小林哲平¹、馬場重樹³、藤山佳秀³、佐田通夫¹ (久留米大学内科学講座消化器内科部門¹、久留米大学炎症性腸疾患センター²、滋賀医科大学消化器内科³)

マウス炎症性腸疾患モデルにおける脂肪由来幹細胞の治療効果と作用機序の検討

○竹山廣志¹、水島恒和¹、西村潤一¹、植村守¹、畑泰司¹、竹政伊知郎¹、山本浩文¹、伊藤壽記²、土岐祐一郎¹、森正樹¹ (大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学¹、大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学²)

炎症性腸疾患マウスモデルにおける腸炎惹起性 memory stem cell 同定の試み

○高原政宏、根本泰宏、大島 茂、渡辺 守 (東京医科歯科大学消化器病態学)

C-(1)-2 臨床的バイオマーカーの開発 (9:58~10:16)

総括 日比紀文 北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター

Multiplex PCR 法を用いた潰瘍性大腸炎患者腸液の検討

○伊良波 淳¹、金城福則¹、金城 徹¹、岸本一人²、外間 昭²、藤田次郎² (琉球大学医学部附属病院光学医療診療部¹、琉球大学医学部附属病院第一内科²)

CAP 治療効果予測因子としての温感と皮膚血流量についての検討

○飯塚政弘^{1,2}、衛藤 武²、相良志穂¹、沼田友華³、柳原 悠³、熊谷 誠³ (秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター¹、秋田赤十字病院消化器科²、秋田赤十字病院臨床工学課³)

疾患活動性バイオマーカーとしての MUC5AC の有効性 -アダリムマブ治療を開始した biologic naive Crohn' s disease での検討-

○溝下 勤、尾関啓司、塚本宏延、谷田諭史、城 卓志 (名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・代謝内科学)

C-(1)-3 疾患特異的バイオマーカーの開発 (10:16~10:34)

総括 坪内博仁 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科寄附講座 HGF 組織修復・再生医療学講座

炎症性腸疾患におけるリンパ管新生因子の発現亢進に関する検討

○佐藤宏和、穂苅量太、三浦総一郎 (防衛医科大学校第2内科)

IBD バイオマーカーLRG の臨床応用に向けて

○新崎信一郎¹、飯島英樹¹、金井隆典²、松岡克善²、辻井正彦¹、竹原徹郎¹、本田宏美³、三嶋 隆³、仲 哲治³
(大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学¹、慶應義塾大学内科²、医薬基盤研究所・免疫シグナルプロジェクト³)

潰瘍性大腸炎に対する血球成分除去療法前後のケモカインプロファイリング

坪内博仁¹、○上村修司²、小野陽平²、沼田政嗣²、瀬戸山仁²、藤田 浩²、井戸章雄²、大井秀久³、寄山敏男⁴、
児玉眞由美⁵ (鹿児島大学大学院 HGF 組織修復・再生医療学¹、鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学²、
今村病院³、出水総合医療センター⁴、宮崎医療センター病院⁵)

C-(1)-4 腸内細菌関連バイオマーカーの開発 (10:34~10:57)

総括 藤山佳秀 滋賀医科大学消化器内科

Data Mining 解析による腸内細菌叢プロファイルの地域差

○藤山佳秀¹、鈴木康夫²、中村志郎³、松井敏幸⁴、安藤 朗⁵、小林登史夫⁶ (滋賀医科大学消化器内科¹、東邦大学
佐倉医療センター内科²、兵庫医科大学消化器内科³、福岡大学筑紫病院消化器内科⁴、滋賀医科大学大学院粘膜
免疫⁵、宮城大学⁶)

大腸全摘術後回腸囊腸内細菌に対する抗菌剤服用の影響について

○福島浩平¹、小森佑奈¹、日當愛美¹、小日向陽介¹、丁 大勇¹、神山篤史²、渡辺和宏²、羽根田祥²、長尾宗徳²、
鈴木秀幸²、舟山裕士³、高橋賢一³、佐々木巖⁴ (東北大学大学院消化管再生医工学・分子病態外科学分野¹、東北大
学大学院生体調節外科学分野²、東北労災病院大腸肛門外科³、みやぎ健診プラザ⁴)

乳酸菌由来ポリリン酸を用いた新規炎症性腸疾患治療薬の臨床応用へ向けた開発研究

○藤谷幹浩¹、上野伸展¹、稲場勇平¹、盛一健太郎¹、前本篤男^{2,3}、蘆田知史^{2,3}、田邊裕貴⁴、高後 裕¹ (旭川
医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野¹、旭川医科大学消化管再生修復医学講座²、札幌東徳州会
病院 IBD センター³、国際医療福祉大学病院消化器内科⁴)

C-(1)-5 炎症による発癌バイオマーカーの開発 (10:57~11:26)

総括 味岡洋一 新潟大学院医歯学総合研究科分子診断病理学分野

「潰瘍性大腸炎の炎症発癌におけるDNA損傷応答の意義

—腫瘍性病変の DNA 損傷を中心に—

○谷 優佑¹、味岡洋一¹、若井俊文²、山口尚之¹、渡辺佳緒里¹ (新潟大学教育研究院医歯学系、分子・診断病理学
分野 (臨床病理学分野) ¹、新潟大学教育研究院医歯学系、消化器・一般外科学分野²)

粘液産生がんにおけるAtoh1発現の意義

○土屋輝一郎、福島啓太、加納嘉人、鄭 秀、堀田伸勝、日比谷秀爾、根本泰宏、大島 茂、岡本隆一、永石宇司、
中村哲也、渡辺 守 (東京医科歯科大学消化器病態学)

潰瘍性大腸炎の炎症性発癌過程における MicroRNA メチル化の意義

○問山裕二、荒木俊光、大北喜基、藤川裕之、奥川喜永、三枝 晋、川村幹雄、近藤 哲、北島貴仁、志村匡信、
川本 文、廣純一郎、田中光司、井上靖浩、内田恵一、毛利靖彦、楠 正人 (三重大学大学院 消化管・小児外科学)

潰瘍性大腸炎の炎症粘膜における遺伝子メチル化の検討—臨床像との関連も含めて—

○田原智満、平田一郎、丸山尚子、長坂光夫、中川義仁、大宮直木、柴田知行 (藤田保健衛生大学大学院消化管内科)

C-(2) 粘膜修復機構解析と治療応用 (11:26~11:50)

総括 有村 佳昭 札幌医科大学消化器・免疫・リウマチ内科学

腸上皮細胞運命に対する MSC のニッチ作用

- 一色裕之、永石敏和、小野寺馨、今井浩三、篠村恭久、有村佳昭（札幌医科大学消化器・免疫・リウマチ内科学）
Wnt5a short peptide の同定と大腸上皮細胞に対する修復機構
内藤裕二、高木智久、○内山和彦（京都府立医科大学消化器内科）
PERK シグナル増強を介した ER ストレス軽減による実験的大腸炎の改善効果
岡崎和一、○岡崎 敬、西尾彰功、松下光伸、大宮美香、安藤祐吾、深田憲将（関西医科大学内科学第三講座）
腸管上皮幹細胞培養とその臨床応用技術開発
○中村哲也、水谷知裕、福田将義、野崎賢吾、渡辺 守（東京医科歯科大学消化器病態学）

事務局連絡

閉会挨拶

(12:00 終了予定)

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」
平成 25 年度第 2 回総会プログラム

期日 平成 26 年 1 月 16 日 (木) 9 : 00 ~ 17 : 10

1 月 17 日 (金) 9 : 00 ~ 12 : 00

場所 味の素(株)本社ビル (東京都中央区京橋 1-15-1)

研究代表者 渡辺 守

(東京医科歯科大学消化器病態学)

事務局 東京医科歯科大学消化器病態学

担当 長堀 正和・中村 哲也

TEL : 03-5803-5877 FAX : 03-5803-0268

E-mail : ibd.gast@tmd.ac.jp

第2回総会について

1) 演題発表について

- (1) スライドは、Power Point で作成し、USB フラッシュメモリディスクまたはCD-ROMに保存したものをお持ち込み下さい。(Windows, Macintosh どちらも対応可能ですが、御自分のPC以外の機器でも試写してからお持ち下さい。)
- (2) 発表 30 分前までに B1 会場スライド受付までご提出下さい。その際、試写 (出力確認) も必ず行ってください。使用したメディアは、画面確認後その場でご返却いたします。
- (3) プロジェクト責任者の総括の発表は司会の中でお願い致します。臨床プロジェクト計画・研究成果の発表 (1 日目) は 5 分、討論 5 分で、基礎プロジェクト計画・研究成果の発表 (2 日目) は 4 分、討論 2 分でお願い致します。時間厳守でお願いします。
- (4) 資料を配布される場合には、200 部を 1 月 14 日 17:00 必着で IBD 班事務局までお送りいただくか当日 8 時 40 分までに B1 会場までお持ち下さい。当日、お持ちいただく場合、会場でのコピーは困難ですので、必ず配布出来る状態の資料を、200 部ご準備してお持ち下さい。

2) 発表データについて

厚生労働省への報告の必要上、発表スライドファイルを当日複製させていただきますことをご了承下さい。不都合のある先生におかれましては、事前に事務局まで御連絡をお願いします。

3) 会場セキュリティについて

- (1) 一階玄関ホール総会受付にて芳名録へご署名後、セキュリティカードをお受け取りいただき、改札を通過して地下一階会場へお進みください。
- (2) 館内はセキュリティ制ですのでセキュリティカードを必ず常時携帯してください。退出される際にはカードをご返却ください。カードの紛失があると全館内のセキュリティに支障を来たしますので、くれぐれも紛失ならびにお持ち帰りにならないようご注意ください。

4) 懇親会について

1 月 16 日会議終了後、12 階カフェテリアにて懇親会を予定しております。

5) 駐車場について

駐車スペースはご用意しておりませんので、公共の交通機関をご利用ください。

6) 会場案内図 味の素株式会社ビル 東京都中央区京橋 1-15-1 / Tel. 03-5250-8111



- ① JR「東京駅」八重洲中央口 (徒歩 10 分)
- ② 東京メトロ銀座線「京橋駅」6 番出口 (徒歩 5 分)
- ③ 都営浅草線「宝町駅」A-2 出口 (徒歩 3 分)
- ④ 東京メトロ日比谷線「八丁堀駅」北口 (徒歩 10 分)

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班
平成25年度第2回総会プログラム

(敬称略)

平成26年1月16日(木)

開会(9:00)

I. 厚生労働省健康局疾病対策課挨拶

厚生労働省健康局疾病対策課 課長補佐 金光一瑛先生

II. 研究代表者挨拶 研究代表者: 渡辺 守

III. 研究報告

p-A) 疫学・研究成果公表プロジェクト

A-(1) 総括的疫学解析プロジェクト (9:20~9:55)

総括 廣田 良夫 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学

炎症性腸疾患の記述疫学 - 臨床調査個人票データより -

○中村孝裕¹、桑原絵里加¹、西脇祐司¹、井上 詠²、渡辺 守³ (東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野¹、慶應義塾大学医学部消化器内科・予防医療センター²、東京医科歯科大学消化器病態学³)

潰瘍性大腸炎発生に対するリスク因子(多施設共同・症例対照研究)

○大藤さとこ¹、福島若葉¹、廣田良夫¹、山上博一²、渡辺憲治²、長堀正和³、渡辺 守³ (大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学¹、大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科²、東京医科歯科大学消化器病態学³、For the Japanese Case-Control Study Group for Ulcerative Colitis.)

クローン病のリスク因子に関する多施設共同・症例対照研究(進捗報告)

○福島若葉¹、大藤さとこ¹、廣田良夫¹、山上博一²、渡辺憲治²、長堀正和³、渡辺 守³ (大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学¹、大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科²、東京医科歯科大学消化器病態学³、For the Japanese Case-Control Study Group for Crohn's disease.)

A-(2) 患者視線に基づいた研究成果公表・広報活動プロジェクト (9:55~10:30)

総括 高後 裕 旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野

全国における国民・患者および一般臨床医に対する啓発・広報活動 -

一般向けおよび一般臨床医向け成果報告会の結果解析と今後の展望

渡辺 守¹、長堀正和¹、○高後 裕²、蘆田知史²、藤谷幹浩²、中村志郎³、佐々木巖⁴、福島浩平⁵、松井敏幸⁶、岩男 泰⁷ (東京医科歯科大学消化器病態学¹、旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野²、兵庫医科大学内科学下部消化管科³、みやぎ健診プラザ⁴、東北大学大学院消化管再建医工学分野・分子病態外科学分野⁵、福岡大学筑紫病院消化器内科⁶、慶應義塾大学包括先進医療センター⁷)

IBDを専門とする消化器医に求められる育成プログラムの開発

- IBD病診連携ネットワークによるコホート研究 の実施状況と解析結果

渡辺 守¹、長堀正和¹、○高後 裕²、蘆田知史²、藤谷幹浩²、稲場勇平²、中村志郎³、福永 健³、佐々木巖⁴、松井敏幸⁵、岩男 泰⁶、藤山佳秀⁷、辻川知之⁷ (東京医科歯科大学消化器病態学¹、旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野²、兵庫医科大学内科学下部消化管科³、みやぎ健診プラザ⁴、福岡大学筑紫病院消化器内科⁵、慶應義塾大学包括先進医療センター⁶、滋賀医科大学消化器内科⁷)

炎症性腸疾患における生物学的製剤治療の医療経済学的効果に関する多施設共同研究の実施状況と結果解析

○藤谷幹浩¹、堂腰達矢¹、伊藤貴博¹、稲場勇平¹、上野伸展¹、盛一健太郎¹、田邊裕貴¹、前本篤男^{2,3}、

蘆田知史^{2,3}、田倉智之⁴、高後 裕¹ (旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野¹、旭川医科大学消化管再生修復医学講座²、札幌東徳洲会病院 IBDセンター³、大阪大学大学院医学系研究科医療経済産業政策学⁴)

p-B) 臨床プロジェクト

B-(1) 診療標準化コアプロジェクト

B-(1)-1 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断基準および重症度基準の改変 (10:30~10:45)

総括 松井敏幸 福岡大学筑紫病院消化器内科

軽症例の重症度推移—臨床調査個人票電子化データ解析より

○桑原絵里加¹、中村孝裕¹、西脇祐司¹、井上 詠²、長堀正和³、渡辺 守⁴、松井敏幸⁴ (東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野¹、慶應義塾大学病院予防医療センター²、東京医科歯科大学消化器病態学³、福岡大学筑紫病院消化器内科⁴)

B-(1)-2 診療ガイドライン作成・改訂 (10:45~11:05)

総括 上野文昭 大船中央病院消化器肝臓病センター

日本消化器病学会との共同開発による炎症性腸疾患診療ガイドライン改訂：直面している問題点

○上野文昭¹、渡邊聡明²、松井敏幸³、渡辺 守⁴、(大船中央病院¹、東京大外科²、福岡大筑紫病院消化器内科³、東京医歯大消化器内科⁴)

炎症性腸疾患診療ガイドラインの改訂：現在の進捗状況

○上野文昭¹、渡邊聡明²、井上 詠³、小俣富美雄⁴、加藤 順⁵、国崎玲子⁶、小金井一隆⁷、小林清典⁸、小林健二⁹、猿田雅之¹⁰、仲瀬裕志¹¹、長堀正和¹²、平井郁仁¹³、本谷 聡¹⁴、松井敏幸¹⁵ (大船中央病院¹、東京大外科²、慶應義塾大予防医療センター³、聖路加国際病院⁴、和歌山県立医大第2内科⁵、横浜市大市民総合医療センターIBDセンター⁶、横浜市立市民病院外科⁷、北里大東病院消化器内科⁸、聖路加国際病院一般内科⁹、慈恵医大消化器内科¹⁰、京都大消化器内科¹¹、東京医歯大消化器内科¹²、福岡大筑紫病院消化器内科¹³、札幌厚生病院 IBDセンター¹⁴)

B-(1)-3 標準化を目指した治療指針の改訂 (11:05~11:35)

総括 中村志郎 兵庫医科大学内科下部消化管科

治療の標準化を目指した潰瘍性大腸炎治療指針の改訂

○中村志郎¹、杉田 昭²、余田 篤³、蘆田知史⁴、安藤 朗⁵、伊藤裕章⁶、押谷伸英⁷、金井隆典⁸、鈴木康夫⁹、長堀正和¹⁰、松井敏幸¹¹、佐々木巖¹²、友政 剛¹³、田尻 仁¹⁴、福永 健¹、樋田信幸¹ (兵庫医科大学内科学下部消化管科¹、横浜市民病院外科²、大阪医科大学小児科³、札幌東徳洲会病院 IBDセンター⁴、滋賀医科大学消化器内科⁵、錦秀会インフュージョンクリニック⁶、泉大津市立病院消化器内科⁷、慶應義塾大学消化器内科⁸、東邦大学佐倉病院消化器病センター⁹、東京医科歯科大学消化器病態学¹⁰、福岡大学筑紫病院消化器内科¹¹、みやぎ健診プラザ¹²、パルこどもクリニック¹³、大阪府立急性期・総合医療センター小児科¹⁴)

治療の標準化を目指したクローン病治療指針の改訂

○中村志郎¹、杉田 昭²、余田 篤³、蘆田知史⁴、安藤 朗⁵、伊藤裕章⁶、押谷伸英⁷、金井隆典⁸、鈴木康夫⁹、長堀正和¹⁰、松井敏幸¹¹、佐々木巖¹²、友政 剛¹³、田尻 仁¹⁴、福永 健¹、樋田信幸¹ (兵庫医科大学内科学下部消化管科¹、横浜市民病院外科²、大阪医科大学小児科³、札幌東徳洲会病院 IBDセンター⁴、滋賀医科大学消化器内科⁵、錦秀会インフュージョンクリニック⁶、泉大津市立病院消化器内科⁷、慶應義塾大学消化器内科⁸、東邦大学佐倉病院消化器病センター⁹、東京医科歯科大学消化器病態学¹⁰、福岡大学筑紫病院消化器内科¹¹、みやぎ健診プラザ¹²、パルこどもクリニック¹³、大阪府立急性期・総合医療センター小児科¹⁴)

潰瘍性大腸炎、クローン病外科治療指針の改訂

○杉田 昭¹、亀岡信悟²、二見喜太郎³、根津理一郎⁴、藤井久男⁵、楠 正人⁶、舟山裕士⁷、渡邊聡明⁸、福島浩平⁹、板橋道朗¹⁰、池内浩基¹¹、佐々木巖¹²、中村志郎¹³ (横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター¹、東京女子医大第2外科²、福岡大学筑紫病院外科³、西宮市立中央病院外科⁴、奈良県立医科大学中央内視鏡

超音波部⁵、三重大学消化管小児外科学⁶、東北労災病院大腸肛門外科⁷、東京大学大腸肛門外科⁸、東北大学分子病態外科⁹、東京女子医大第2外科¹⁰、兵庫医科大学下部消化管外科¹¹、みやぎ健診プラザ¹²、兵庫医科大学内科学下部消化管科¹³)

B-(2) 画期的な診断・治療の開発プロジェクト ―診断面から―

B-(2)-1 新たなデバイスを用いたクローン病小腸病変の診断と治療 (11:35~12:10)

総括 松本主之 岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野

クローン病の小腸狭窄に対する内視鏡的拡張療法―多施設共同前向き試験の登録終了の報告と現状―

○平井郁仁¹、松本主之²、松井敏幸¹ (福岡大学筑紫病院消化器内科¹、岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野²)

クローン病小腸病変に対するバルーン小腸内視鏡と MRE の比較試験、Progress Study : 国内多施設共同試験

○渡辺憲治¹、十河光栄¹、山上博一¹、竹内 健²、鈴木康夫²、矢野智則³、歌野健一⁴、山本博徳³、平井郁仁⁵、松井敏幸⁵、長沼 誠⁶、日比紀文⁷、大塚和朗⁸、渡辺 守⁸ (大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科学¹、東邦大学医療センター佐倉病院内科²、自治医科大学消化器内科³、福島県立医科大学会津医療センター小腸大腸肛門科⁴、福岡大学筑紫病院消化器内科⁵、慶應義塾大学医学部消化器内科⁶、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター⁷、東京医科歯科大学消化器病態学⁸)

本邦クローン病におけるカプセル内視鏡所見の検討―多施設共同研究に関する中間報告―

○松本主之¹、江崎幹宏²、渡辺 守³ (岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野¹、九州大学病態機能内科学²、東京医科歯科大学消化器病態学³)

<昼食・幹事会> (12:10~13:00)

B-(2)-2 癌サーベイランス法の確立 (13:00~13:25)

総括 渡邊聡明 東京大学臓器病態外科学講座腫瘍外科学

潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立

○渡邊聡明¹、味岡洋一²、武林 亨³、井上永介⁴、飯塚文瑛⁵、五十嵐正広⁶、岩男 泰⁷、大塚和朗¹⁷、工藤進英⁸、小林清典⁹、佐田美和⁹、田中信治¹⁰、友次直輝¹¹、樋田信幸¹²、平田一郎¹³、松本主之¹⁴、渡辺憲治¹⁵、上野文昭¹⁶、渡辺 守¹⁷、日比紀文¹⁸ (東京大学大学院医学系研究科・医学部臓器病態外科学講座腫瘍外科学¹、新潟大学大学院医歯学総合研究科分子・診断病理学分野²、慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学³、北里大学薬学部臨床統計⁴、東京女子医科大学消化器病センター⁵、癌研有明病院内科⁶、慶應義塾大学内科⁷、昭和大学横浜市北部病院消化器センター⁸、北里大学東病院内科⁹、広島大学病院内視鏡診療科¹⁰、慶應義塾大学クリニカルリサーチセンター¹¹、兵庫医科大学下部消化管科¹²、藤田保健衛生大学消化管内科¹³、岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野¹⁴、大阪市立大学医学部消化器内科¹⁵、大船中央病院・消化器肝臓病センター¹⁶、東京医科歯科大学消化器病態学¹⁷、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター¹⁸)

クローン病に合併した大腸癌のsurveillance program 確立の検討 (痔瘻癌を含む)

―多施設共同研究によるpilot studyの中間報告 (第4報)―

○杉田 昭¹、小金井一隆¹、二見喜太郎²、舟山裕士³、池内浩基⁴、根津理一郎⁵、板橋道朗⁶、水島恒和⁷、荒木俊光⁸、渡邊聡明⁹、福島浩平¹⁰、佐々木巖¹¹ (横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター¹、福岡大学筑紫病院外科²、東北労災病院大腸肛門外科³、兵庫医科大学下部消化管外科⁴、西宮市立中央病院外科⁵、東京女子医大第2外科⁶、大阪大学消化器外科⁷、三重大学消化管小児外科学⁸、東京大学大腸肛門外科⁹、東北大学分子病態外科¹⁰、みやぎ健診プラザ¹¹)

B-(3) 画期的な診断・治療の開発プロジェクト —治療面から—

B-(3)-1 難治性炎症性腸疾患に対する新規治療の位置づけ (13:25~13:50)

総括 日比紀文 北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター

多施設共同医師主導型臨床試験「難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムスとインフリキシマブの
治療効果比較試験」

○松岡克善¹、長沼 誠¹、金井隆典¹、日比紀文²、渡辺 守³、樋田信幸⁴、松浦 稔⁵、猿田雅之⁶、朝倉敬子⁷
(慶應義塾大学消化器内科¹、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター²、東京医科歯科大学消化器
病態学³、兵庫医科大学内科下部消化管科⁴、京都大学医学部消化器内科⁵、東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科⁶、
東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻疫学保健学講座⁷)

多施設共同医師主導型臨床試験「インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対する
インフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究-HAYABUSA-」:進捗状況

○小林 拓¹、久松理一²、仲瀬裕志³、平井郁仁⁴、松本主之⁵、本谷 聡⁶、渡辺憲治⁷、日比紀文¹ (北里大学北里
研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター¹、慶應義塾大学医学部消化器内科²、京都大学消化器内科³、福岡大学
筑紫病院消化器内科⁴、岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野⁵、JA北海道厚生連札幌厚生病院 IBD センター⁶、
大阪市立大学消化器内科⁷)

B-(3)-2 クロウン病に対する適切な免疫調節剤投与方法、インフリキシマブ二次無効例に対する対処 (13:50~14:35)

総括 鈴木康夫 東邦大学医療センター佐倉病院内科

クロウン病に対するアダリムマブと免疫調節剤併用療法の検討:進捗状況

○松本主之¹、仲瀬裕志²、渡辺憲治³、久松理一⁴、日比紀文⁵、渡辺 守⁶
(岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野¹、京都大学消化器内科²、大阪市立大学消化器内科³、
慶應義塾大学消化器内科⁴、北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター⁵、東京医科歯科大学消化器病態学⁶)

インフリキシマブによる寛解維持治療における効果不十分なクロウン病患者を対象とした栄養療法併用効果
確認試験 (CERISIER Trial) (多施設共同研究)

○久松理一¹、中村志郎²、長堀正和³、横山 薫⁴、国崎玲子⁵、辻川知之⁶、仲瀬裕志⁷、渡辺憲治⁸、本谷 聡⁹、
蘆田知史¹⁰、山本博徳¹¹、平石秀行¹²、屋嘉比康治¹³、勝野達郎¹⁴、鈴木康夫¹⁵、大草敏史¹⁶、飯塚文瑛¹⁷、中井勝彦¹⁸、
横山 正¹⁹、平田一郎²⁰、山本隆行²¹、飯島英樹²²、樋口和秀²³、小坂 正²⁴、春間 賢²⁵、平岡佐規子²⁶、田中信治²⁷、
河内修治²⁸、安藤 朗⁶、渡辺 守³、日比紀文²⁹ (慶應義塾大学消化器内科¹、兵庫医科大学消化器内科²、
東京医科歯科大学消化器病態学³、北里大学東邦院消化器内科⁴、横浜市立大学炎症性腸疾患 (IBD) センター⁵、
滋賀医科大学消化器内科⁶、京都大学内科系 消化器内科学講座⁷、大阪市立大学消化器内科⁸、札幌厚生病院
IBD センター⁹、札幌東徳州会病院 IBD センター¹⁰、自治医科大学消化器内科¹¹、獨協医科大学消化器内科¹²、
埼玉医科大学医療センター消化器・肝臓内科¹³、千葉大学消化器内科¹⁴、東邦大学佐倉病院消化器内科¹⁵、
東京慈恵会医科大学柏病院消化器・肝臓内科¹⁶、東京女子医科大学消化器内科¹⁷、松田病院胃腸・肛門外科¹⁸、
横山胃腸科病院¹⁹、藤田保健衛生大学消化器内科²⁰、四日市社会保険病院 IBD センター²¹、大阪大学消化器内科²²、
大阪医科大学消化器内科²³、大和病院²⁴、川崎医科大学食道・胃腸内科²⁵、岡山大学消化器・肝臓内科²⁶、広島大学
内視鏡診療科²⁷、松山赤十字病院消化器内科²⁸、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター²⁹)

多施設共同医師主導型臨床研究「アダリムマブと免疫調節剤併用中の寛解クロウン病患者における
免疫調節剤休薬の検討-Diamond2」

○久松理一¹、松本主之²、仲瀬裕志³、渡辺憲治⁴、渡辺 守⁵、日比紀文⁶ (慶應義塾大学医学部消化器内科¹、
岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野²、京都大学消化器内科・内視鏡部³、大阪市立大学消化器内科⁴、
東京医科歯科大学消化器病態学⁵、北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター⁶)